Office for Promotion of Gender Equality, Sophia School Corporation
上智学院 男女共同参画推進室

# NEWSLETTER

September 2012 No. 1

## Contents：


| | |
|---|---|
| ·上智学院男女共同参画推進室長のご挨拶 | 1 |
| ·上智学院 第1回 男女共同参画セミナー | 2 |
| ·2012オープンキャンパス「未来のソフィーちゃん、集まれ！」 | 2 |
| ·ランチミーティング | 2 |
| ·グローバル·メンター相談会 | 3 |
| ·共催 | 2,3 |
| ·2012年度研究支援員制度 | 4 |
| ·男女共同参画推進委員会 | 4 |
| ·報告 | 4 |
| ·お知らせ | 4 |


上智大学では、文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業（旧 科学技術振興調整費 女性研究者支援モデル育成）「グローバル社会に対応する女性研究者支援」事業（2009～2011年度）で様々な取組を実施してきました。
男女共同参画推進室では、これまでの取組を引き継ぎ、グローバル社会で活躍する研究者の育成、ワーク・ライフ・バランスの推進、研究者を目指す中高生の育成、男女共同参画に関する意識啓蒙等に取り組みます。またこれらの活動を通じて、学生・教職員に対して、男女共同参画意識を高め、21世紀の上智学院の発展に貢献する活動を積極的に推進していきます。

## 上智学院男女共同参画推進室長のご挨拶

学術交流担当副学長　ユー·アンジェラ

私にとって、男女共同参画とは夢と宝探しです。どの国にもこういう物語の原型があります。二またに分かれた道で立ち止まった旅人に、賢者が現れて聞きました。平坦な道を辿るか、険しい山道を選択するか、と。男女共同参画推進室長の私なら、迷わず後者を選びます。なぜなら、平坦な道なら現状維持しかできませんが、山道を乗り越えれば奥にある男女共同参画の宝物が見えるからです。これから皆の協力によって、より優しく、進歩的な勉学、研究、労働環境を目指します。そして、上智大学が牽引力を発揮し、国内外の男女共同参画のロールモデルとなるのは私の夢です。

### 上智大学短期大学部学長　高野 敏樹

上智大学短期大学部は伝統のあるカトリック女子教育機関として、女性に開かれた社会、ジェンダーフリー社会の牽引者となるべき知性と教養と自己形成力、そして「他者のために、他者とともに生きる」精神に溢れる女性の育成をめざしています。短期大学部は、今後とも上智学院男女共同参画推進室と手を携えて学生と教職員の「学びの共同体」として、この目標を追求していきたいと思います。

### 上智社会福祉専門学校長　髙山 貞美

男女共同参画社会の実現には、「介護の社会化」や「育児の社会化」といった社会福祉の充実が欠かせません。本校はこの「社会福祉の担い手」を育成していることを改めて自覚し、社専創立50周年を踏まえ、教職員が自らの就業環境を整えるとともに、学生に対する啓発活動もより一層推進していきたいと考えています。

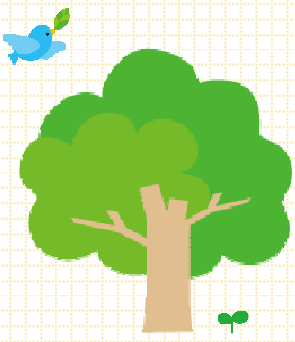
### 聖母大学長　佐久間 勤

女性の社会的役割は、男性中心と言われるカトリックの伝統にあっても大きいものでありました。聖母大学もその実例の一つで、修道女たちが経営し看護師を養成してきました。旧約聖書で女が創造される物語において「これは女（イシャー）と呼ばれる」とあります。男が女にイシャーという名を付けるのではなく、その呼び名を受け入れるのです。所与の者として、ありのままに受け取ることが最初の男女の関係です。男女共同参画もまた、それぞれのあり方を相互に認め尊重するところから始まります。

### 聖母看護学校長　和田 サヨ子

本校は10年以上のキャリアの准看護士が学生であり、看護という職業柄、学生・教職員ともに女性が多いのが特徴です。学生の平均年齢も40代と高いため、多くの学生・教職員は家庭を持ち、仕事と家庭を両立させています。
現在も今後も、男女共同参画の基本方針のもと、努力している学校です。

上智大学は、2011年1月に「男女共同参画推進宣言」を制定し、全学に男女共同参画の重要性の啓蒙と意識改革を推し進めてきました。そして、2012年1月1日に上智学院男女共同参画推進室を新たに設置しました。



## 上智学院第1回男女共同参画セミナー

『男女共同参画は日本の希望』
山田　昌弘氏（中央大学文学部・教授）
日時：2012年7月2日（月）15：30-17：00

講演をしている山田氏

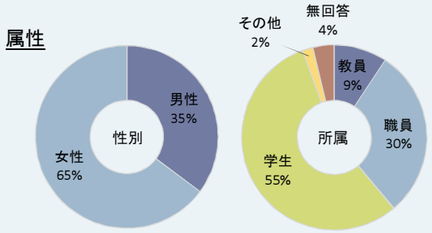
セミナー会場の様子

家族社会学・ジェンダー論を専門とする山田昌弘教授を招き、上智学院第1回男女共同参画セミナーを開催しました。男女共同参画の視点から、大学が社会に対して果たすべき役割を考える機会として、学内の教職員と学生を中心に76名が参加しました。
　講演では、データと山田氏ご自身の体験をもとに、若者の結婚観・経済力・雇用の現状などを説明されました。そして、この現状を変えていくのは男女共同参画の視点を持つことであると強調されました。

### 参加者アンケート

・アンケート回収率　71.1%

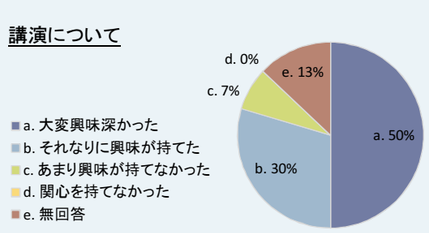
属性







講演について




## 2012オープンキャンパス「未来のソフィーちゃん、集まれ！」

日時：2012年8月2日（木）～4日（土）3日間

実験コーナーと相談（理工学部）

今年度のオープンキャンパスでは、男女共同参画推進室の取組の一つとして、女子学生の割合が少ない法学部・経済学部・理工学部の紹介を主に女子高校生を対象に行い、3日間合計で約1,200名が来場しました。

おしゃべりタイム（経済学部）

2号館507教室では、法学部・経済学部のロールモデルとして、各学科1名ずつOGの学生時代と社会での活躍をポスターで紹介しました。
　理工学部の紹介は、3号館536教室で行い、理工学部の女性教員（10名）の研究内容や研究室についてのポスターを展示しました。その他にも在学生の説明による細胞の観察や分光器を用いて光の波長を見る実験コーナーを設け、女子高校生や中学生が熱心に説明を聞いていました。
　また、3学部毎に実施した「おしゃべりタイム」では、大学生活や進路などについて在学生に直接相談ができ、大変好評でした。

## ランチミーティング

日時：2012年6月26日（火）・27日（水）12：40-13：30

ランチミーティングの様子

上智学院男女共同参画推進室では、女性研究者によるネットワークを構築することで、研究と子育ての両立や、問題を抱え込まないために学部や専攻を超えた交流を推進しています。
　今回は、男女共同参画推進室長のユー学術交流担当副学長を中心にした女性研究者によるランチミーティングを開催しました。開催場所は女性研究者・女子学生の交流の場として設置されているコモンスペース（10-315室）を使用し、文系・理系の様々な学部の女性研究者が、ランチとおしゃべりをしながら楽しく交流を深めました。このような女性研究者のネットワークづくりを進めていくために、今回のような催しだけではなく、Webでも「Sophia女性研究者ネットワーク」を運営し、登録を呼びかけています。是非女性研究者ネットワークにご参加ください。

▶ 詳細は…
推進室HP>>「女性研究者ネットワーク」へ

## グローバル・メンター相談会

男女共同参画推進室の取組の一つに、海外で活躍する研究者をメンターとして、個別相談はもとより、授業、講演、交流会等を通じてアドバイスや学術指導を行うグローバル・メンター制度があります。
　このグローバル・メンター制度を活用して、6月にグループで行うグローバル・メンター相談会を2回開催しました。

第2回グローバル・メンター相談会の様子

### 第1回　日時：2012年6月8日（金）16：30-17：30

**グローバル・メンター**
**・Pauline Schaap先生　（Professor, University of Dundee, UK）**
**・大坪　久子先生（元日本大学総合科学研究所・教授）**
参加者：18名（女性11名、男性7名）

【参加者の感想】

▶ 佐藤 有紀江（理工学研究科M1）
私が博士後期課程への進学を決意したのは、ロールモデルであるPauline 先生に影響されたことが一つの大きなきっかけで、再び先生にご意見を聴く機会を頂けたことに感謝しております。
　お尋ねしたのは「専攻を変えることについてどのように思うか」ということですが、大切なのは研究対象に興味を持つ気持ちで、自らの探究心を追及していった結果、研究対象が変わることがよくある、という認識だそうです。これを聞いて、安堵しました。私は、細胞性粘菌を使った細胞分化メカニズムの解明を続けたいと強く思い進学を希望したため、背中を押されたようにとても励まされました。先生のおっしゃられた通り、自らの研究に多角的な視野をもって取り組めるアドバンテージになるように、前向きに生かしていきたいと考えました。

▶ ソヌ ミ（理工学部情報理工学科 PD）
私はポスドクという立場から研究をしながら、次の就職のことも考えなければならない状況であります。しかし、進路について相談をする機会がなく、一人で悶々とする日々が多かったと思われます。メンターの先生はそれぞれヨーロッパでの博士研究員の経験、アメリカでの博士研究員の経験がおありの先生で、とても興味深い話をしてくれました。今まで、日本での研究スタイルに慣れている私にとってはとても勉強になりました。海外の博士研究員になるということは地域より自分がやりたい研究ができるような環境を選ぶべきであることを教えてくれました。

グローバル・メンターの
Schaap先生（左）と
大坪先生（左から2番目）

### 第2回　日時：2012年6月26日（火）15：30-16：30

**グローバル・メンター**
**・Nina Berova先生（Professor,Columbia University, USA）**
参加者：10名（女性6名、男性4名）・司会進行2名

【参加者の感想】

▶ 鈴木 里奈（理工学部物質生命工学科4年）
私が非常に興味深いと感じたのは、国によって、理系学生の大学生活には違いがある、ということでした。特に驚いたのは、アメリカの理系大学院には修士課程、博士課程といった境目がなく、大学院は5年と決まっていることでした。さらに、大学院進学にあたり、費用は企業などの援助金を経て、大学側が負担している、ということにさらに衝撃を受けました。この違いは、アメリカ・日本の企業がどのような人材を欲しているかによって変わっているのだと感じました。私のイメージとしてはアメリカでは、より専門的な知識を持った人、日本では幅広い知識をもった器用な人が企業に求められているような気がします。このような違いが、理系の学生の生活を大幅に変えているのだと思いました。

▶ 國井 麗子（経済学部経済学科3年）
今回、私は文系学生として初めてグローバル・メンター相談会に参加させて頂きました。Nina先生は18歳の時にブルガリアから単身アメリカに渡り長年研究を重ねてきており、異国の地での生活を決意した理由、英語の習得方法や大学での研究内容、女性のキャリアについてなど幅広いトピックをお話ししてくださいました。一言ひとことに重みがあって、私自身も「女性が働きやすい環境を整える手伝いがしたい」と強く感じました。また、Nina先生が「上手にしゃべれなくてもいいから英語を使いなさい、そうすることでより選択肢が広がるのだから」とおっしゃいました。私は日本国内での仕事を考えていましたがNina先生をはじめ、今回一緒に参加した韓国人留学生の方とお話をし、今まで自分が選択肢を狭めていたことに改めて気づかされました。グローバル・メンター相談会は世界一流の教授から直にお話を聞き、自分の感じたこと、疑問に思ったことを話し、新しいことを発見できる場となっています。

**共催**

### 全学年対象Self-Discoveryプログラム『わたしの未来発見講座　～女性が自分らしく働くために～』

日時：2012年6月25日（月）17：00-18：30

四谷キャンパス12号館102教室にて、キャリアセンター・男女共同参画推進室共催のセミナーが開催されました。
　本学の女性卒業生3名（ゴールドマン・サックス証券、住友商事、三菱地所に総合職として勤務）のパネルディスカッションと、女子学生との座談会を実施しました。
　本学の女子学生70名が参加し、いろいろな障害を乗り越えながら力強く働いている先輩の話を大変熱心に聞き入っていました。

### 公開講座「西田ひかるさん（本学OB）とイクメン教育学者が語る“子育ては楽しい”」

日時：2012年6月10日（日）14：00-15：30

昨年度に引き続き、大阪サテライトキャンパスにおいて、上智大学公開学習センターと男女共同参画推進室の共同開催による講座が開かれました。
　タレント、そして二児の母でもある西田ひかるさん（1994年比・比卒）と、本学大学院総合人間科学研究科教育学専攻主任で、イクメンとしての顔も併せもつ北村友人准教授（専門分野：比較教育学・教育社会学）を講師に招き、お二人の仕事と家庭を両立させる秘訣や、育児・教育論についてお話しいただきました。 子育てがテーマということもあり、子ども連れの女性を含め約70名が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

※昨年度は本学の女性研究者研究活動支援事業と公開学習センターの共同で『現代社会と女性』の講座を開きました。

## 2012年度研究支援員制度スタート

2012年6月～2013年3月

この制度は、妊娠・出産・育児というステージにある研究者に、研究活動にかかわる業務を補佐する研究支援員を配置することにより、研究時間を確保し、公正な競争に参加できるよう、学院として支援するものです。

支援対象者は妊娠中もしくは小学校3年生以下の子どもを養育している本学院の専任教員（男女）で、週6時間の研究支援員を配置することができます。

なお、本研究支援員制度は、2009～2011年度上智大学「グローバル社会に対応する女性研究者支援」事業において実施されてきた研究支援員制度を継続し、上智学院全体に拡大したものです。

▶詳細は…
推進室HP>>「研究支援員制度」へ

▶研究支援員を配置している教員の内訳

| 学部 | 学科 | 性別 |
|---|---|---|
| 総合人間科学部 | 心理学科 | 女性 |
| 総合人間科学部 | 社会学科 | 男性 |
| 総合人間科学部 | 看護学科 | 女性 |
| 法学部 | 地球環境法学科 | 女性 |
| 法学部 | 地球環境法学科 | 男性 |
| 経済学部 | 経営学科 | 女性 |
| 国際教養学部 | 国際教養学科 | 女性 |
| 理工学部 | 物質生命理工学科 | 男性 |
| 理工学部 | 物質生命理工学科 | 男性 |
| 理工学部 | 機能創造理工学科 | 男性 |
| 理工学部 | 情報理工学科 | 女性 |
| 理工学部 | 情報理工学科 | 男性 |

## 男女共同参画推進委員会

第1回：2012年5月8日（火）
第2回：2012年7月3日（火）

委員は下記の通りです。

| | 役職・選出母体 | 所属 | 氏名 |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 総務担当理事 | | 山岡　三治 |
| 委員 | 人事担当理事 | | 杉本　徹雄 |
| 委員 | 男女共同参画推進室長 | | YIU　ANGELA |
| 委員 | 上智大学 | 神学部神学科 | 川中　仁 |
| 委員 | 上智大学 | 文学部史学科 | 北條　勝貴 |
| 委員 | 上智大学 | 総合人間科学部心理学科 | 久田　満 |
| 委員 | 上智大学 | 法学部地球環境法学科 | 三浦　まり |
| 委員 | 上智大学 | 経済学部経営学科 | 細萱　伸子 |
| 委員 | 上智大学 | 外国語学部ポルトガル学科 | 矢澤　達宏 |
| 委員 | 上智大学 | 国際教養学部国際教養学科 | THOMPSON　MATHEW |
| 委員 | 上智大学 | 理工学部物質生命理工学科 | 齋藤　玉緒 |
| 委員 | 上智大学 | 地球環境学研究科 | 平尾　桂子 |
| 委員 | 上智大学短期大学部 | | 狩野　晶子 |
| 委員 | 社会福祉専門学校 | | 佐藤　千晶 |
| 委員 | 聖母大学 | | 西井　尚子 |
| 委員 | 聖母看護学校 | | 大釜　信政 |
| 委員 | 総務局長 | | 須田　誠一 |
| 委員 | 人事局長 | | 福澤　礎之 |
| 委員 | 女性研究者支援WG推進代表者 | 理工学部物質生命理工学科 | 早下　隆士 |

報告

## 産総研コンソーシアム ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）総会に参加

2011年より上智学院は産業技術総合研究所コンソーシアム ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）に加入し、産総研はもとより他の加入研究機関と連携して男女共同参画を推進しています。

2012年6月6日（水）に、平成24年度DSO総会、DSO機関担当者懇話会に出席しました。「組織内コミュニケーション～各種制度について」の懇話会で、本学の「グローバル・メンター制度」を紹介し、多くの関心を集めました。

## 国立女性教育会館主催　平成24年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」ワークショップを開催

2012年8月25日（土）、国立女性教育会館が主催するフォーラムにおいて、東京都市大学、関西学院大学、東海大学と本学が共同でワークショップを開催しました。

「もっと広げよう！男女共同参画推進の輪～私立大学の特徴を活かした取組みにむけて」というタイトルで、「女性研究者支援モデル育成事業」に採択された4私立大学が、取り組みを通じて見えてきた私立大学ならではの共通の課題を考察しました。参加者は25名でしたが、真剣な質疑応答が行われ、大変充実したものとなりました。

ワークショップの様子

## お知らせ

コモンスペース（10-315室）にて、国立女性教育会館（NWEC）女性教育情報センターで行っている図書のパッケージ貸出サービスを利用して、図書の閲覧・貸出をしています。10月よりワーク・ライフ・バランス、キャリア形成などに関する書籍に入替りますので、この機会に是非コモンスペースにお立ち寄りください。

## 編集・発行

学校法人 上智学院男女共同参画推進室
（人事局内/分室10-315室）
〒102-8554　東京都千代田区紀尾井町7-1
E-mail: wrsswg@sophia.ac.jp
http://danjokyodo-sophia.jp